

CSRレポート2018



創業の精神 社是「三利の向上」

社是に「三利の向上」を掲げています。これは、創業者の貴重な経験と努力から生まれた、会社のあり方についてまとめたものですが、創業者の理念として、現在の「理想の姿」が生まれた背景になっています。

三利とは、お客様、社員、社会の三者の利をいいます。この三者がいかなる場合にも共に利あるよう全社員が一丸となって努力します。

各人が互譲、信頼の精神並びに共治、共栄、共福を達成し、社会に貢献していきます。

私たちが目指す姿（ビジョン）

1. 独自の技術・サービスを創造し、業界をリードする会社を目指します。
2. 最高の製品・サービスの提供を通じて、信頼される会社を目指します。
3. 地域社会に貢献し、社会から必要とされる会社を目指します。
4. 共に考え、助け合える、働きがいのある会社を目指します。

トップコメント



宮川 純一

<「パイピング ソリューション」で社会貢献>

- ◆ レッキスでは、水道やガスなど我々の毎日の生活になくてはならないライフラインの確保の為、配管設備など様々な分野での商品開発に力を注いでいます。
「パイピング ソリューション」を合言葉に、あらゆる配管のトラブルや課題解決を通じてお客様の満足度の向上や社会貢献に取り組んでいます。
- ◆ 近年は特に震災などの災害に強い耐震性・耐久性に優れた配管システムの提案や、作業現場で働く人々の作業環境や環境保全など、お客様視点でのモノづくりを基本に、高品質な商品・サービスの提供を目指しています。

<CSR活動推進で人も企業も成長>

- ◆ レッキスではCSR活動（社会貢献）を大きく3つの分野で取り組んでいます。
 - ① 商品・サービスの提供を通じて社会インフラの整備に貢献
 - ② 障がい者雇用やボランティア活動を通じての地域社会への貢献
 - ③ 環境にやさしい商品作りや、省エネ・リサイクルで地球環境保全への貢献これらの活動を我々メンバー一人ひとりが「当たり前の行動」として積極的に取り組み、人（従業員）の成長を通じて「社会から選ばれる企業」を目指します。

<そして「私たちが目指す理想の姿」実現のために>

- ◆ 日本企業は、為替・エネルギー・税制など六重苦に苦しめられてきました。
そんな逆風のなか「日本のメーカー」として生き残るには、日本人が日本でしか出来ない商品サービスを提供し続けることだと思います。
- ◆ 一方で、世界で競争力のある商品を市場に提供するには、レッキスの中国・アメリカの工場や世界各地のビジネスパートナーとの連携が大変重要です。これらのグローバルパートナーは、3年前の熊本地震や8年前の東日本大震災、またタイ洪水などの災害や中国リスク等による事業継続計画（BCP）のリスクマネジメントにも重要な存在です。
- ◆ 最後に社内においては「ほめ合える文化」の浸透を通じて「個人も職場もやりがいがあり、達成感が得られる環境づくり」を推進しています。そして「笑顔」いっぱいの会社を目指します。



レッキスのモノづくりは、「お客様の喜んで頂く顔」をコンセプトに、「独自性・感動・創造性」の3つを開発ポリシーに「現場作業に見合った最適な商品」の提供を志し、作業者と作業現場に密着した商品開発を行うため、お客様の声に耳を傾け、お客様と共に歩んでいきたいと考えています。

こういった活動が「社会インフラ整備」への貢献にも繋がっています。そんなレッキスの商品には、お客様の声をもとに多くの工夫が詰まっています。

お客様の声を集約した開発・商品

◆超小型バンドソー マンティス65A



作業現場での施工性・施工効率の向上を目的とし、超小型化を実現しました。

その大きさは「A3」サイズと、小型化と合わせて軽量化（本体質量11kg）にも成功しました。しかも小型ながらパワーを兼ね備え、材料を切断するスピードは早く、その上切断用の「のこ刃」の耐久性にも優れ長寿命化も実現しました。その他、前面よりの「のこ刃」交換が可能や、プーリー部に切り粉除去ブラシ採用など、たくさんの工夫が詰まった商品です。

◆水道水用コントローラ JWEF300



この商品も新ダイキャストボディの採用により、小型・軽量化を実現しました。軽量ながら丈夫なボディと、耐衝撃性に優れたクッションダンパー採用により、長期間使用に耐えられるようになりました。

また、1台で2社のEF継手の使用が可能になり、見やすい大型液晶画面（前機種対比20%UP）を採用、GPS搭載により位置情報の記録と時間補正まで可能になり、この商品にもたくさんの工夫が詰まっています。

◆マルチドラムクランプ



この商品は上記製品（水道水用コントローラ）の作業をサポートする道具です。

クランプがドラム式のため、チェーン式クランプと比較し作業性が向上しました。クランプノブにはベアリング機能の内蔵により、軽い力でクランプが可能になり、1台で様々な継手、サイズ、角度にも対応できるような工夫が施されています。

障害者雇用の推進

障がい者に役立つ取り組み・改善の実践

障がいのある方を雇い入れたことをきっかけに、安心して働ける会社づくりを進めています。その結果が障害者雇用率に現れていると考え、10%を超える雇用率を保っています。(2019年3月31日現在: 11.5%)。社内では報告会や勉強会が増え、聴覚障がい者のために外部から手話通訳の方に来ていただくなど、不自由がないように心がけています。

聴覚障がい者への支援「手話通訳のインターネット中継」

4月・10月は会社方針発表会、7月からは会社近況報告朝会を半年毎に、その他健康教室など勉強会を決まった月に行うようになりました。これらはインターネットを使って全国中継しています。鳥取工場では聴覚障がい者も働いており、都度、手話通訳者を依頼して手話通訳もインターネット中継に加えました。回を重ねるごとに、手話通訳者の立つ位置や背景、明るさ加減などを調整し、改善を進めています。



働く障がい者への支援活動

5月の第二日曜日に「大阪府布施障害者雇用対策協議会」を代表して、周辺企業で働く障がい者の支援として「東大阪市民ふれあい祭り」に参加しました。例年と違い朝から曇り空で午後はどしゃぶりの雨となりました。それでも招待していた児童たちが模擬店「スーパーボールすくい」にやってきました。雨の中傘を手放してまで楽しんでいる姿を見ることができました。

この日のために多くの会員企業様からバザー出店用の商品もいただきましたが、ついには途中で大会本部より中止の連絡があり、早々に片付け始めました。雨の中レインウェアを着込み頑張って協力企業からいただいた商品はほぼ売り切ることができました。



全体の売上金は大巾にダウンとなりましたが、この収益金で今年も働く障がい者の皆様を「吉本新喜劇」に招待することができました。

その後、何社か新規会員企業として入会していただき会員企業も増えました。そこで働く方々によりよい活動・報告ができるように、また準備を進めてまいります。



支援学校との交流

Win-Win の繋がりを築いています

地元たまがわ高等支援学校の生徒さんたちに花壇いっぱいの花を植えていただいています。春になるとこの花が大きく開き、やがて生徒さんたちは工場見学や、職場実習に来られます。夏になると採れたての夏野菜の販売が行われ、働く私たちは我先にと買います。そんな一年の繰り返しがあたり前のような光景となり、その職場実習生が当社に就職するまでになりました。

工場見学と、職場実習の受入れを行っています

春になるとたまがわ高等支援学校の先生より新入生の工場見学の依頼電話が入ります。今年も6月に多くの生徒さんが見に来てくれました。ねじ切り機の組立ラインでは必ず行われるねじ切りテストなど製品が出来あがる様子をしっかりと見られていました。

職場実習は2名の生徒さんを6月と9月に各2週間ずつ受け入れました。特に6月は緊張もあり疲れたことと思われます。

9月の実習は会社の雰囲気にも慣れた様子で、最終日まで元気に頑張っていました。

そんな経験を積み、2019年4月より社員となり職場内を明るくしてくれています。



夏野菜の即売会は盛況です

夏休みにもかかわらず毎日一生懸命に育てた野菜を摘み取り、当社の玄関前に並べての即売会が今年も8月に行われました。朝採れたてで値段も安く、待ち望んでいた社員が一気に集まってきます。野菜は短時間で飛ぶように売れ、次々と売り切れていきます。汗を流しながら売る生徒さんの姿、それを求めて買う社員の姿は、暑い夏の風物詩となりました。



花壇には次の春を意識した花を植えていただきました

毎年季節が変わるごとに当社の花壇はたまがわ高等支援学校の生徒さんに植えていただいた花でいっぱいになります。

今年は2018年の年末に次の年の春を想像させる花を植えていただきました。卒業する三年生が4月に入社することが決まり丁度その時に大きく満開になるようにと先生も生徒さんも寒い中での植花となりましたが、この春綺麗な花が咲き誇っています。



児童施設への支援

これからのこどもたちのために

児童施設への定期的な寄付や支援が定着してきました。大阪市内にある児童施設を支援する団体には寄付金を毎月送金し、東大阪工場の近隣施設には年二回の会社行事に招待を継続して行うようになりました。ペットボトルのキャップも集めれば支援に繋がります。これからのこどもたちのために何ができるかを、今も考え続けています。

児童施設への寄付

大阪市内にある児童施設「こどもの里」への支援として「みらいこども財団」へ毎月寄付金の送金を続けています。同財団は多くのボランティアを求め、寄付金の他に学生などの現地での支援なども行われています。



毎年9月には奈良の児童発達支援施設「すくすく」に寄付をしています。障害のあるこどもたちに先生方がひとりひとりに対応し、年間行事なども積極的に行われています。今後はそんな支援もできればと考えています。



年末は「生駒学園」へお餅を寄付しています。同時に近隣の老人会にも寄付を続けています。そして新年を迎えるとこどもたちから手紙が届きます。「焼いて、ぜんざいに入れて食べたよ」などなど。これからも続けていきます。



近隣の子供たちと楽しいひと時♪

本社工場近くの児童施設「若江学院」のこどもたちを5月に市民祭りの模擬店「スーパーボールすくい」に、7月には工場内でのバーベキューパーティに招待しています。真夏のパーティは暑い中炭火も強く燃えています。「かき氷」や「ジュース」などで暑さ・渴きを癒し、お肉をほおぼりと、毎年みんなで楽しいひと時を過ごしています。



ペットボトルのキャップを大切に

ペットボトルのキャップを集めて「エコキャップ推進協会」へ送り続けています。キャップはリサイクルされる工程で国内の障がい者への作業支援に、その後は海外のこどもたちへのワクチン注射や、寄付金となっています。各営業所からも多くの協力があり、小さなキャップですが大切にしています。



地球環境を大切にした活動

事業活動を通じて環境保護に貢献

環境方針「事業活動を通じて、環境保護に貢献する」を掲げ、自社商品の環境配慮のためあらゆる工程で省エネ（電力削減など）や、排出されるゴミの削減（リサイクル率向上）などを重要項目として取り組んでいます。また社内環境教育・啓発活動の一環として、環境委員の地域清掃活動への参加や、環境施設の見学（ベンチマーク）などを進めています。

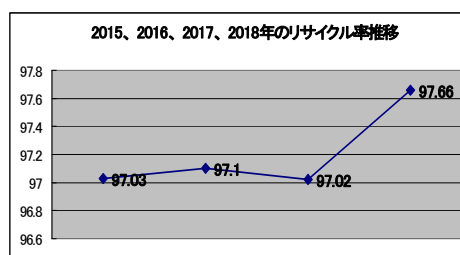
環境対応商品の開発

「水道水用コントローラ JWEF300」を開発しました。この冊子の最初の項目でも紹介しています様に「長期使用に耐えること」を主眼にしています。修理で戻ってくる旧型の壊れ具合を参考にし、軽量で丈夫なボディ化や、耐衝撃性に優れたクッションダンパーの採用など、多くの工夫を加えました。



徹底したゴミ分別で高いリサイクル率を維持

今年も全社のゴミの排出量を減らすことができました。2002年に取り組みを開始し、16年間で捨てるゴミを85%減らしました。昨年から今年にかけても1.6%減と皆の努力が続いています。これに伴いリサイクル率も97%と高い数値を維持しています。こちらの率も僅かですが昨年より0.6%高くなりました。



地域清掃活動

環境チームで駅前清掃を続けています。チームメンバーとの年2回（6月・11月）の清掃活動はメンバーが体験したことを部内でのミーティングで語り、啓発活動にも繋がっています。またチームメンバーも毎年少しずつ代わり、直に経験する社員も増えました。



環境施設のベンチマーク

環境問題をより深く知るために環境施設の見学を行いました。昨年は廃棄物リサイクル工場を、今年は大阪の環境センター（おおさかATCグリーンエコプラザ）を環境チームで見学（ベンチマーク）しました。環境センターでは、リサイクル可能品の紹介や、他社の環境活動を多く紹介されており、今後の活動に役立つ情報を沢山得ることができました。



次年度も見学先を探し、環境教育・活動に役立てていきます。

働きがいのある職場づくり

「働きがいのある会社」は職場の安全はもちろんのこと、今は職場の活性化、社員の健康づくりを積極的に進めています。職場の活性化では「ありがとう経営」「改善提案活動」を軸に「全員参加」を目指しています。

健康経営優良企業の認定を受けました！

経済産業省の制度「健康経営優良企業」の認定を目指し、健康に関する取り組みを増やしてきました。定期健康診断でのオプション受診項目の追加や、健康に関する「健康教室（研修）」の実施、喫煙所を一箇所に定めたりし、色々な改善・取り組みが認められ、2019年2月に優良企業の認定を受けました。



他、長年継続しています始業前の「ラジオ体操」でも協会から賞をいただきました。

認定を受けて社内ネットワークを利用した「健康掲示板」の開設もしました。これからも健康に繋がる取り組みをひとつひとつ進めていきます。



改善提案活動

業務の効率化、経費削減、環境影響の緩和などさまざまな切り口で改善を進めています。生産部門では1秒でも早く作る工夫とか、購買部門では少しでも安く部材を購入する。また、各部門でゴミの削減など環境問題にも工夫を重ねています。そんな改善提案も年々増え、年間1700件近く実施されています。効果の大きい良い提案には「優秀提案賞」を授与しています。



ありがとう経営の実践

「ほめ合える掲示板」に「ありがとう！」を書き込み、互いに認め・ほめ合う活動（ありがとう経営）を続けています。こちらも年々参加する従業員も増え、「ありがとう！」の数も増え続けています。年間2600件の「ありがとう！」は、改善提案活動と併せて、組織の活性化に繋がっています。



安全衛生活動（避難路のパトロール実施）

災害時に速やかに避難できるよう「避難路のパトロール」を実施しています。たとえ出口までたどり着いても、扉が開かなければだめで、パトロール結果より多くの扉の修理も行いました。他、避難経路図や誘導案内図など、安全衛生委員会で日々点検しています。

